

関係各位

## 2021年10月期 第2四半期連結決算の概要

2021年6月10日  
株式会社トップカルチャー

### (1) 総括

当社グループの2021年10月期第2四半期連結決算（2020年11月1日～2021年4月30日）は、以下の通りです。

- ・売上高は、**145億93百万円**（前年同期 159億64百万円）
- ・営業利益は、**2億4百万円**（前年同期 3億43百万円）
- ・経常利益は、**2億3百万円**（前年同期 3億76百万円）
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益は、**1億57百万円**（前年同期 3億24百万円）

### (2) 連結業績の要素別分析

#### 売上高

前年の新型コロナウイルス感染拡大によるマスク等衛生用品の売上伸長の反動、前年末から1月中旬にかけての記録的大雪による交通障害、前年を大きく下回る乖離が継続しているレンタル事業の影響が大きく、蔦屋書店事業全体の売上高は前年同期比 **91.2%**（既存店 **93.6%**）となりました。

一方で主力である書籍及び特撰雑貨・文具の拡販をさらに強化するため、市場が縮小するレンタル事業の圧縮を進め、その売り場を活用した新たなライフスタイル提案の取り組みに着手いたしました。県内店舗を中心に14店舗で日用品・家庭用品を導入、今後はリモートワークやイベント開催、趣味・学習機会の場として活用いただけるコワーキングスペースの拡大を計画しております。

尚、メーカーとのコラボレーションによる企画販売等も行い、引き続き店舗の魅力向上に努めてまいります。

#### 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

セルフレジの利用促進や店舗オペレーションの見直しによる業務効率化の推進、電力等業者の見直し、営業時間の短縮により、販管費の大幅な削減に繋がりましたが、14店舗におけるレンタルからライフスタイル売り場への変更に伴う改装経費が嵩んだため、売上減少分の利益を補うには至らず、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益とも前年同期比を下回る結果となりました。

尚、レンタルからライフスタイルへの改装効果が寄与し始める第3四半期決算においては、大幅な増益を見込んでおります。

### (3) 2021年10月期の通期業績予想

新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、緊急事態宣言が6月20日まで延長されるなど、依然厳しい経済環境が続いています。また、感染力が強い変異ウイルスが全国に急拡大している状況の中、今後の経済活動の一部制限となる可能性もあり、当社事業への影響も少なからずあると考えております。これらのことから、2021年10月期の通期業績予想に関しましては、合理的かつ適正な予測が可能となった時点で皆様にお知らせいたします。

以上

\*\*\*\*\*

本文書に関するお問い合わせ先： 株式会社トップカルチャー 取締役財務部長CFO 吉田 勝一  
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話：025-232-0008